

【医薬品】 小林製薬「ナイシトール」について

～ 薬剤師、医師は副作用のチェックを ～

最近、世をあげて”メタボリックシンドローム”です。国家的プロジェクトとして2000年にスタートした「健康日本21」の折り返し点で突如浮上したメタボリックシンドロームは、「内臓脂肪症候群」とも呼ばれるように「内臓脂肪」が関与して生活習慣病を引き起こす病態です。医療費を抑制しようという国のねらいは分かりますが、現実の姿はどうでしょうか。「診断基準」なるものがひとり歩きし、「腹囲85cm」、「内臓脂肪」などのキーワードが世の中年男性を脅かしています。専門家の間では、この「基準」の根拠や信頼性を疑問視する声もありますが、これをいち早く先取りして、世の悩める中年男性の注目を集めているのが「肥満症薬」です。日本の市販薬（一般用医薬品）には「肥満症薬」というものはありませんが、一部漢方薬には効能として「肥満症」が記載されているものがあります。平成18年6月7日付の朝日新聞に次のような記事が掲載されました。

ナイシトールは、国のメタボリックシンドローム対策に合わせて登場しましたが、新手の「やせ薬」でもなんでもなく、古くから漢方薬として売られている「防風通聖散」そのものです。防風通聖散の効能効果には「腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症：肥満症、高血

売れてます「肥満改善薬」 小林製薬

小林製薬が3月に発売した肥満症薬「ナイシトール85」が約半年で売上高14億5千万円を記録するヒット商品となっている。中高年男性のメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）への関心の高まりに加え、ダイエット効果に期待する女性の購入が予想以上に広がったためだ。

ナイシトールは、ドラッグストアなどで販売される一般用医薬品（大衆薬）の漢方内服薬。18種類の生薬から抽出した漢方エキスが肥満症や便秘の改善に効果があるという。

厚生労働省が5月、心筋梗塞や脳卒中など生活習慣病の引き金になるメタボリックシンドロームの全国調査を公表。同症候群に注目が集まり、売り上げが急激に伸びた。製薬業界では「大衆薬では年間売上高が10億円を超すと大ヒット」とされる。ナイシトールの売上高は初年度目標（4億5千万円）の3.2倍に達しており「最終的に22億円に達する勢い」（小林豊社長）という。

内臓脂肪に関心高まり

圧の随伴症状（どうき、肩こり、のぼせ）、便秘、むくみ」とあり、従来は脂肪太りの人の便秘薬として、女性に人気の薬でした。それが商品名と包装をサプリメント風に変えて売り出したところ、少々お腹の出た中年男性がこぞって買い求めたというわけです。「防風通聖散」の効能効果にはない「内臓脂肪の減少」を連想させる商品名と「腹囲85cm以上」を表わすパッケージ写真は、消費者に過大な期待を抱かせる点で問題です。最近パッケージの表示が一部変更されましたが問題解決にはなっていません。

お腹をへこませようと、安易にイメージに惹かれてナイシトールを連続服用している人の健康障害が懸念されます。

薬剤師、医師は、甘草（カンゾウ）の重大な副作用・偽アルドステロン症の症状がでていないかどうか注意する必要があると思います。薬剤師は初回販売時に高血圧の有無を、追加販売時には血圧値の上昇はないかを確認すべきであり、医師は血圧コントロール不良の患者がいたら、他に漢方薬を飲んでいないかどうかを聞いてほしいと思います。

漢方薬の約70%に甘草が含まれており、長期大量服用による副作用を防ぐために、一日最大配合量は5gと決められていますが、1g以下の場合は、副作用に対する注意記載はしなくてよいことになっています。ナイシトールの甘草配合量（1日）は1gなので、高血圧、心臓、腎臓、むくみに対する注意はありません。しかし、副作用の起こりやすさには個人差があり、甘草は他の医薬品や食品にも広く使われていますので、長期服用の場合は副作用がおこる可能性は十分にあります。潜在的な副作用は多いと思われるので、専門家のチェックと十分な説明が必要です。服用中の方は薬剤師に相談されることをおすすめします。